

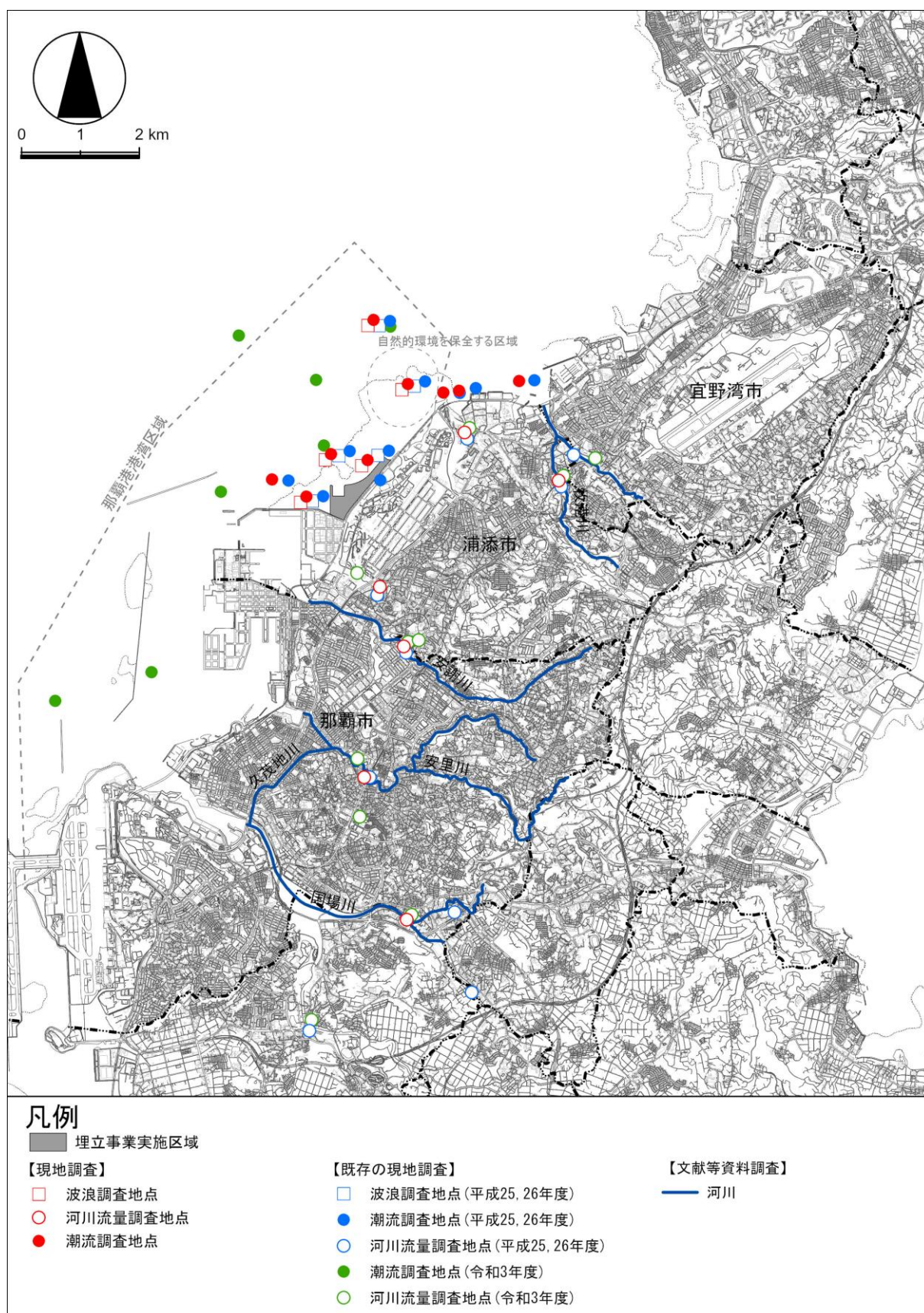


図 5.2.7(1) 水象の調査地点（広域）

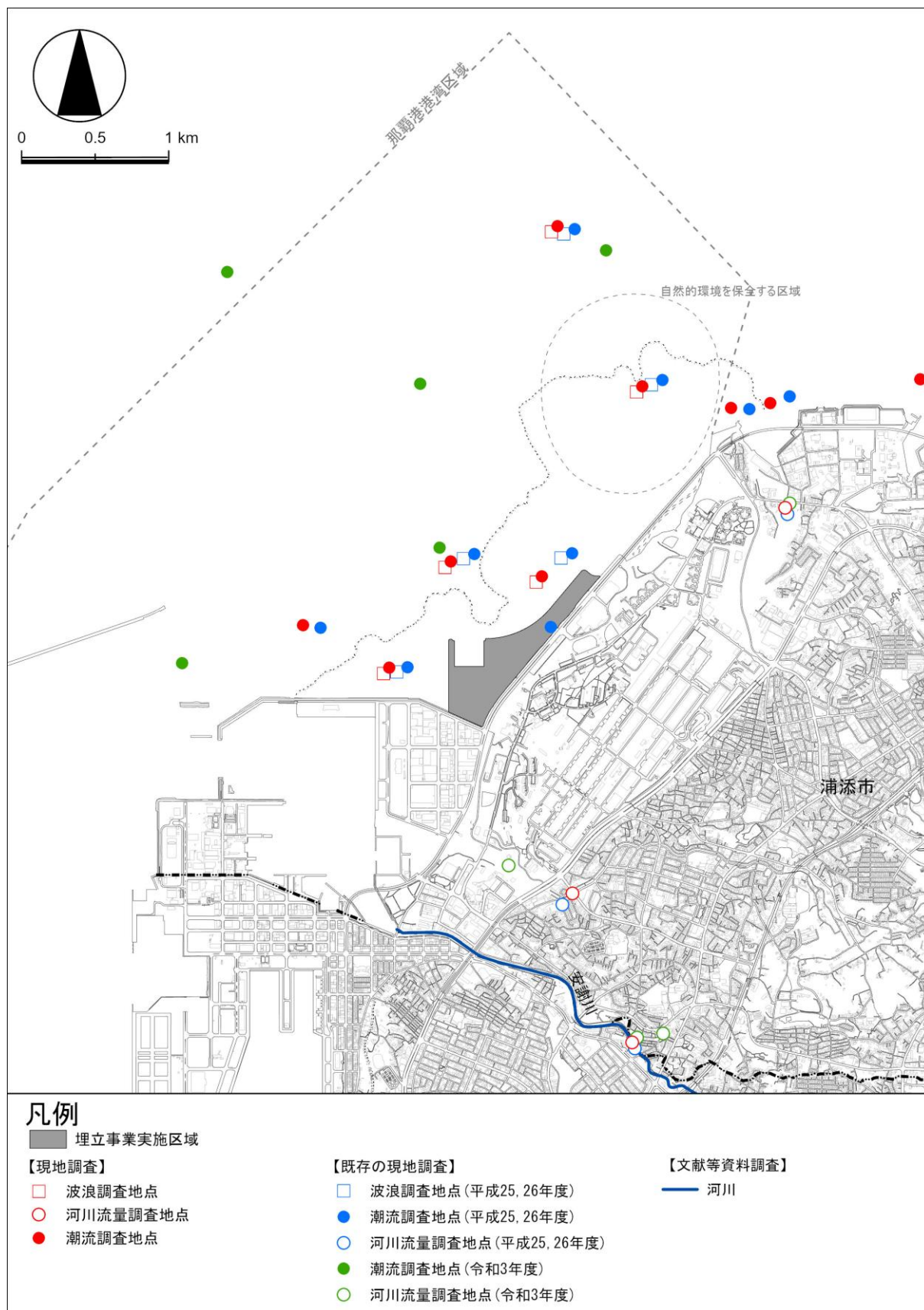


図 5.2.7(2) 水象の調査地点（埋立事業実施区域周辺）

表 5.2.8 予測の手法（水象）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	水象
	影響要因の区分	[施設等の存在及び供用]埋立地の存在
予測項目	[施設等の存在及び供用] 1) 流向・流速 2) 波高・波向	
予測方法	[施設等の存在及び供用]	波浪の変化は、波の屈折・浅水変形・碎波・構造物による反射等を考慮した波浪変形モデルを用いた数値シミュレーションにより予測した。 潮流の変化は、水象は、潮汐流、吹送流、海浜流（波浪を考慮）、リーフ内の干出及び淡水流入を考慮できる数値シミュレーション（二次元多層モデル）により3次元的に予測した。また、事業実施区域周辺の主な河川からの淡水流入量を考慮した。
予測地域 予測地点等	[施設等の存在及び供用]	水象の状況を勘案し、影響を受けるおそれがあると認められる地域において、50m格子に区分して数値計算を行い、水象を的確に把握できる地域。 ただし、埋立事業実施区域近傍についてはより小さな格子間隔（16.7m）を設定した。
予測対象時期等	[施設等の存在及び供用]	埋立地が存在する時期 波浪：平常時及び高波浪時（台風期） 潮流：平常時
選定の理由	施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

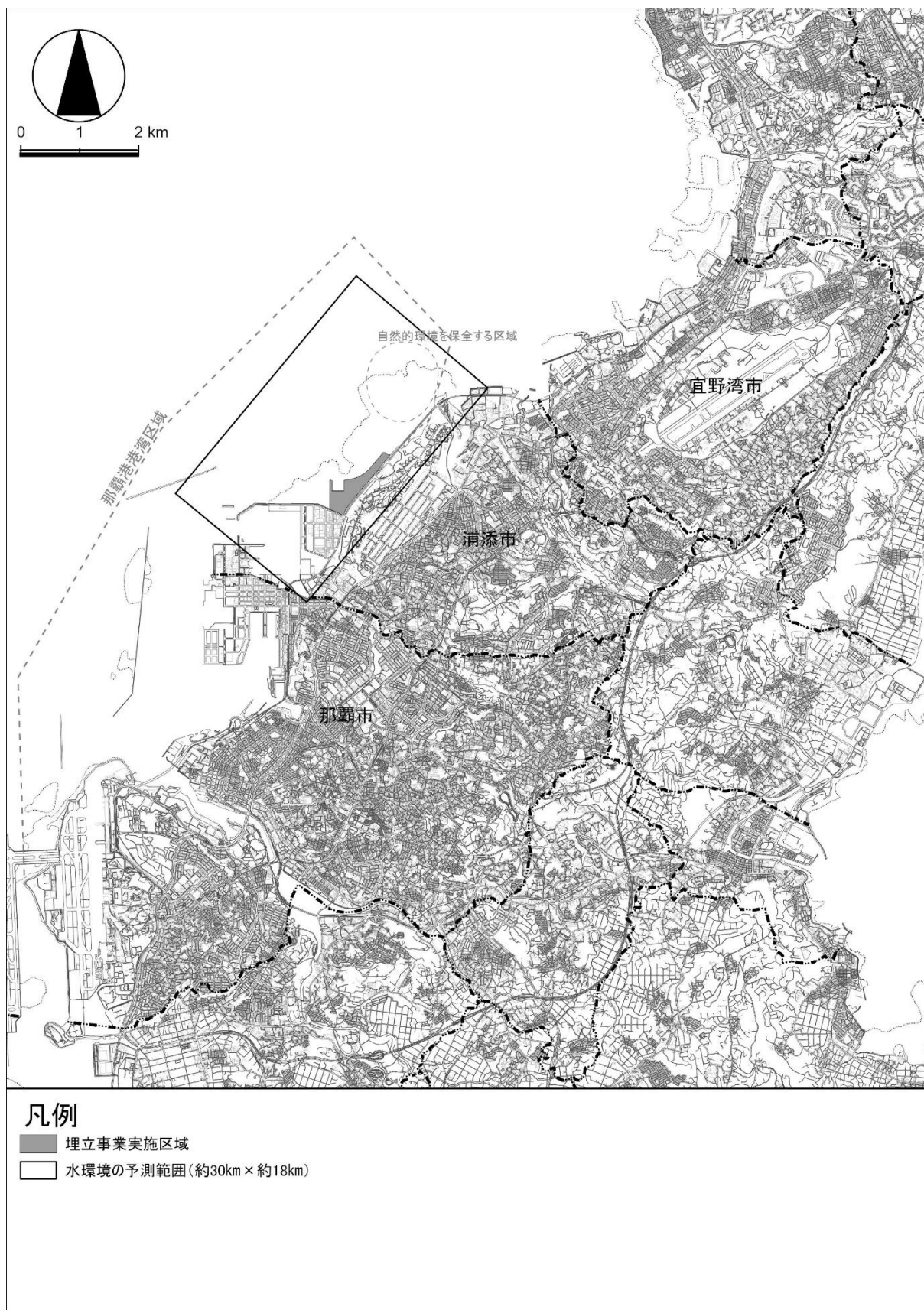


図 5.2.8 水象の予測範囲

5.2.5 水の汚れ

表 5.2.9(1) 調査の手法（水の汚れ）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	水の汚れ
	影響要因の区分	[施設等の存在及び供用]埋立地の存在
調査すべき情報	1) 水域の状況 2) 水質の状況 ① 海域の水質 < 四季（平常時）：上げ潮・下げ潮時 > (ア) 観測事項：水深、水温、塩分、透明度等 (イ) 生活環境項目等：pH、DO、n-ヘキサン抽出物質、大腸菌数、COD、T-N、T-P、SS、濁度 < 夏季（平常時）：下げ潮時 > (ウ) 健康項目等：カドミウム、全シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素、1,4-ジメチル、ダイキシン類 < 降雨時：下げ潮時 > (ア) 観測事項：水深、水温、塩分、透明度等 (イ) 生活環境項目等：COD、T-N、T-P、SS、濁度 ② 河川等の水質 < 四季（平常時）：下げ潮時 > (ア) 観測事項：水深、流量、水温、塩分、透視度等 (イ) 測定項目：BOD、COD、T-N、T-P、SS、濁度 < 降雨時 > (ア) 観測事項：水深、流量、水温、塩分、透視度等 (イ) 分析項目：SS、濁度 ③ 浸出水	
	1) 水域の状況 文献等資料調査 「沖縄県主要水系調査書」（沖縄県）等による利水状況、法令の状況等の情報の収集並びに当該情報の整理及び解析。 2) 水質の状況 ① 海域の水質 文献等資料調査 「水質測定結果（公共用水域及び地下水）」（沖縄県環境部）の調査結果等の情報の収集並びに当該情報の整理及び解析。 既存の現地調査 「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書（A）」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託（B）」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。 現地調査 「水質調査方法」（環境庁）及び「ダイキシン類に係る水質調査マニュアル」（環境省）に基づき、バンドーン型採水器等を用いて、海面下0.5m層より採水するとともに、観測事項を観測。試料は、JIS等に定められた公定法により分析。 2) 水質の状況 ② 河川等の水質 文献等資料調査 「① 海域の水質」と同じ。 既存の現地調査 「① 海域の水質」と同じ。 現地調査 「水質調査方法」（環境庁）に基づき、水深の二割程度の深さより採水するとともに、観測事項を観測。流量を電磁流速計等により観測。試料は、JIS等に定められた公定法により分析。	

表 5.2.9(2) 調査の手法（水の汚れ）

調査の基本的な手法	2) 水質の状況 ③浸出水	
	既存の現地調査	踏査により、浸出水が干潟表面に多く電気伝導度が相対的に低い場所を選定し、シーページメータを設置し、浸出量の計測、電気伝導度の測定を行い、淡水浸出量を試算する。
調査地域	1) 水域の状況、2) 水質の状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の海域・河川。
	既存の現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の海域・河川。
	現地調査	水域の特性及び水の汚れの変化の特性を踏まえて、水の汚れに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域。
調査地点等	1) 水域の状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の主要河川、那覇港等海域
	2) 水質の状況 ①海域の水質	
	文献等資料調査	那覇港等海域 11 地点
	既存の現地調査	A：埋立事業実施区域及びその周辺の 18 地点 (ただし、「(ウ)健康項目等」は代表 3 地点のみ) B：那覇港港湾区域内の 13 地点
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の 17 地点 (ただし、「(ウ)健康項目等」は代表 2 地点のみ)
	2) 水質の状況 ②河川等の水質	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の主要河川 21 地点
	既存の現地調査	A：埋立事業実施区域及びその周辺の 10 地点、排水路 4 地点 B：那覇港港湾区域内の 10 地点
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の 6 地点、排水路 4 地点 (ただし、排水路 4 地点は降雨時のみ)
	2) 水質の状況 ③浸出水	
	既存の現地調査	浦添ふ頭地区の海岸線
調査期間等	1) 水域の状況	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	2) 水質の状況 ①海域の水質	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	既存の現地調査	A：平成 26 年の四季の年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）の年 3 回（ただし、「(ウ)健康項目等」は夏季のみ） B：令和 3 年の夏季・冬季の年 2 回
	現地調査	四季の年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）年 3 回 (ただし、「(ウ)健康項目等」は夏季のみ)
	2) 水質の状況 ②河川等の水質	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	既存の現地調査	A：平成 26 年の四季の年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）の年 3 回（ただし、排水路 4 地点は降雨時のみ） B：令和 3 年の夏季・冬季の年 2 回
	現地調査	四季の年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）の年 3 回 (ただし、排水路 4 地点は降雨時のみ)
	2) 水質の状況 ③浸出水	
	既存の現地調査	平成 26 年の任意の 1 回
選定の理由	施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

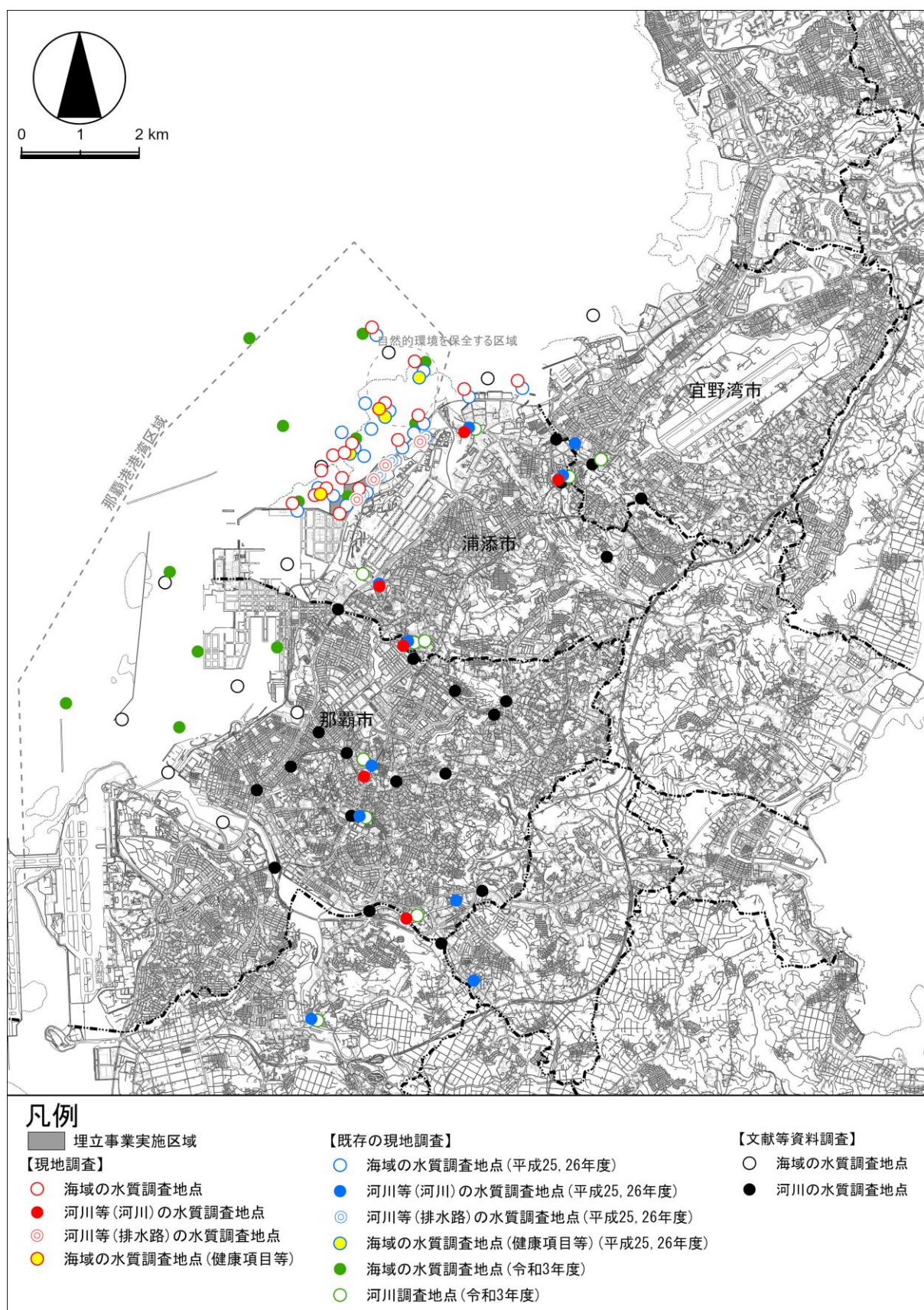


図 5.2.9 (1) 水の汚れの調査地点 (広域)

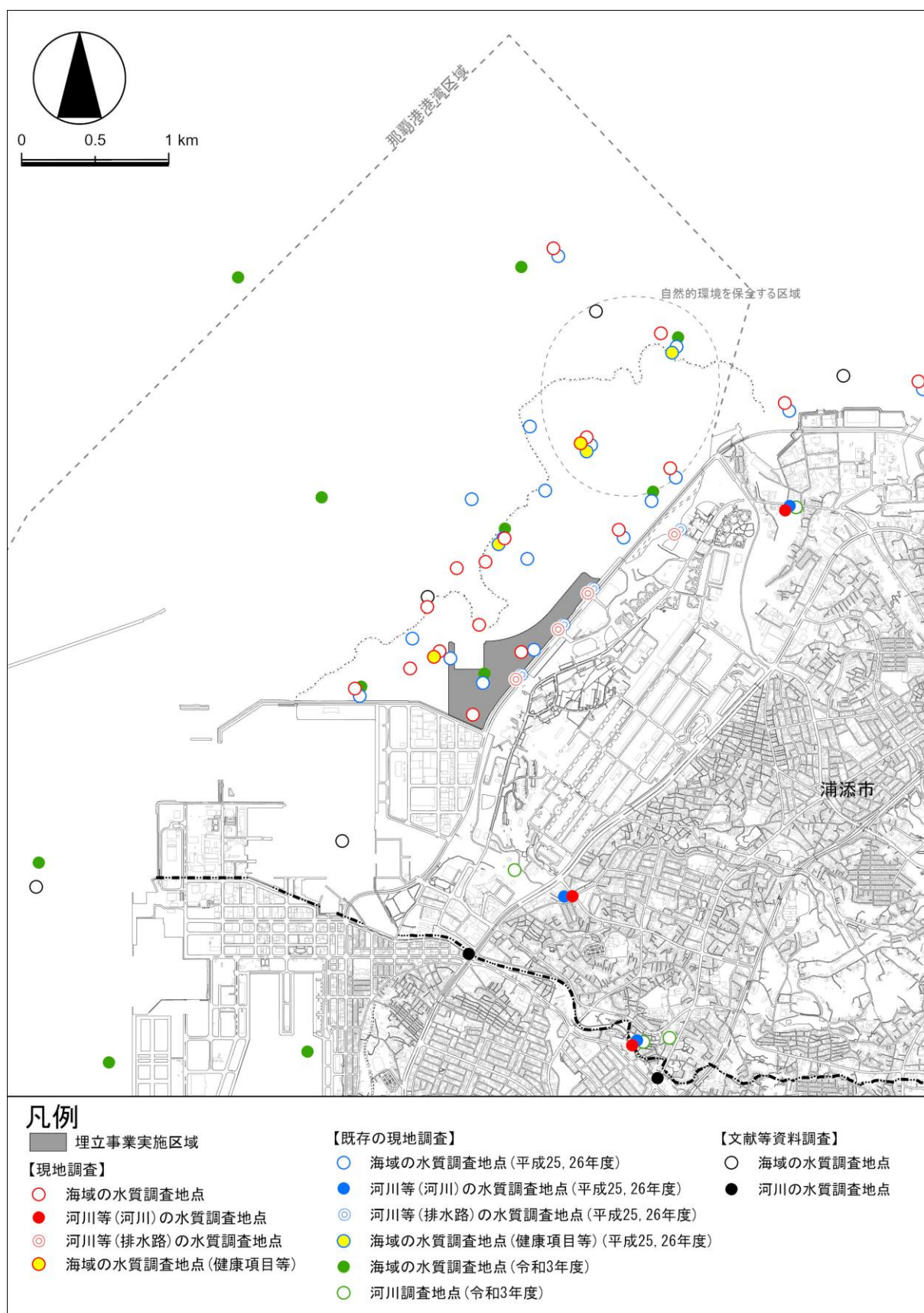


図 5.2.9(2) 水の汚れの調査地点(埋立事業実施区域周辺)

表 5.2.10 予測の手法（水の汚れ）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	水の汚れ
	影響要因の区分	[施設等の存在及び供用]埋立地の存在
予測項目	[施設等の存在及び供用] 1)COD（化学的酸素要求量）、2)T-N（全窒素）、3)T-P（全りん）4)降雨時の塩分	
予測方法	[施設等の存在及び供用]	埋立地の存在による水質変化は、物質の収支に関する数値シミュレーションにより予測した。 埋立地の存在により発生する雨水排水に伴う塩分の変化については、降雨時を対象として、流動モデルにより予測した。
予測地域 予測地点等	[施設等の存在及び供用]	水質、潮流の状況を勘案し、影響を受けるおそれがあると認められる地域において、50m 格子及び 16.7m 格子に区分して数値計算を行い、水の汚れの影響を的確に把握できる地域。 ※水象（図 5.2.8）と同じ。
予測対象時期等	[施設等の存在及び供用]	埋立地が存在する時期（平常時及び降雨時）
選定の理由	施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

5.2.6 赤土等による水の濁り

表 5.2.11(1) 調査の手法（赤土等による水の濁り）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	赤土等による水の濁り
	影響要因の区分	[工事の実施] 護岸及び埋立ての工事
調査すべき情報	1) 海域の濁りの状況 (SS (浮遊物質量)、濁度、透明度) 2) 河川等の濁りの状況 (SS (浮遊物質量)、濁度、透視度、流量、降水量)	
調査の基本的な手法	1) 海域の濁りの状況	
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査 (現地調査) 業務委託報告書 (A)」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託 (B)」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	「水質調査方法」(環境庁)及び「ダイキソ類に係る水質調査マニュアル」(環境省)に基づき、バンドーン型採水器等を用いて、海面下0.5m層より採水するとともに、観測事項を観測。試料は、JIS等に定められた公定法により分析。 - 自記録式濁度計、塩分計を設置し、自然影響による海域の濁り及び塩分の変動状況を測定する。
	2) 河川等の濁りの状況	
	文献等資料調査	「水質測定結果 (公共用水域及び地下水)」(沖縄県環境部)におけるSSの情報及び降水量の気象観測記録の収集並びに当該情報の整理及び解析。
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査 (現地調査) 業務委託報告書 (A)」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託 (B)」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	「水質調査方法」(環境庁)に基づき、水深の二割程度の深さより採水するとともに、観測事項を観測。流量を電磁流速計等により観測。試料は、JIS等に定められた公定法により分析。
調査地域	1) 海域の濁りの状況、2) 河川等の濁りの状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の海域・河川
	既存の現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の海域・河川
	現地調査	- 地域の特性及び赤土等による水の濁りの変化の特性を踏まえて赤土等による水の濁りに係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域。 - 埋立事業実施区域周辺。
調査地点等	1) 海域の濁りの状況	
	文献等資料調査	那覇港等海域 11 地点
	既存の現地調査	A : 埋立事業実施区域及びその周辺の 18 地点 B : 那覇港港湾区域内の 13 地点
	現地調査	- 埋立事業実施区域及びその周辺の 17 地点 - 埋立事業実施区域周辺の 1 地点
	2) 河川等の濁りの状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の主要河川 21 地点。沖縄気象台 1 地点、沖縄県河川情報システム 2 地点
	既存の現地調査	A : 埋立事業実施区域及びその周辺の 10 地点、排水路 4 地点 B : 那覇港港湾区域内の 10 地点
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の 6 地点、排水路 4 地点

表 5.2.11(2) 調査の手法（赤土等による水の濁り）

調査期間等	1) 海域の濁りの状況、2) 河川等の濁りの状況	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	既存の現地調査	A：平成 26 年の四季年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）の年 3 回（ただし、排水路 4 地点は降雨時のみ） B：令和 3 年の夏季・冬季の年 2 回
	現地調査	・四季の年 4 回及び降雨時（梅雨期・夏季・冬季）の年 3 回（ただし、排水路 4 地点は降雨時のみ） ・梅雨時期、冬季の年 2 回（濁度塩分の連続観測）
選定の理由	工事の実施にあたっては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用するため、標準的な手法を選定	

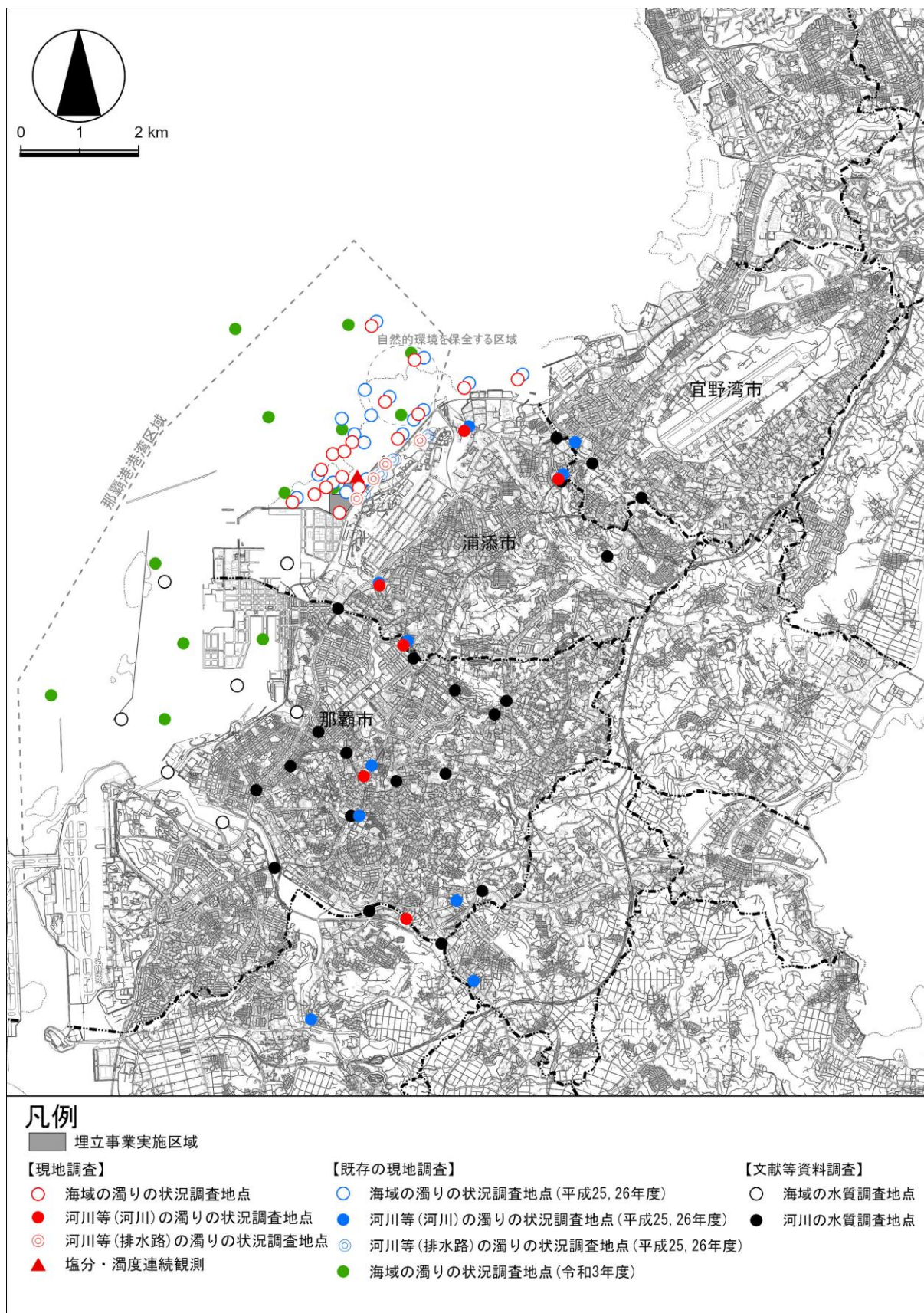


図 5.2.10(1) 赤土等による水の濁りの調査地点(広域)

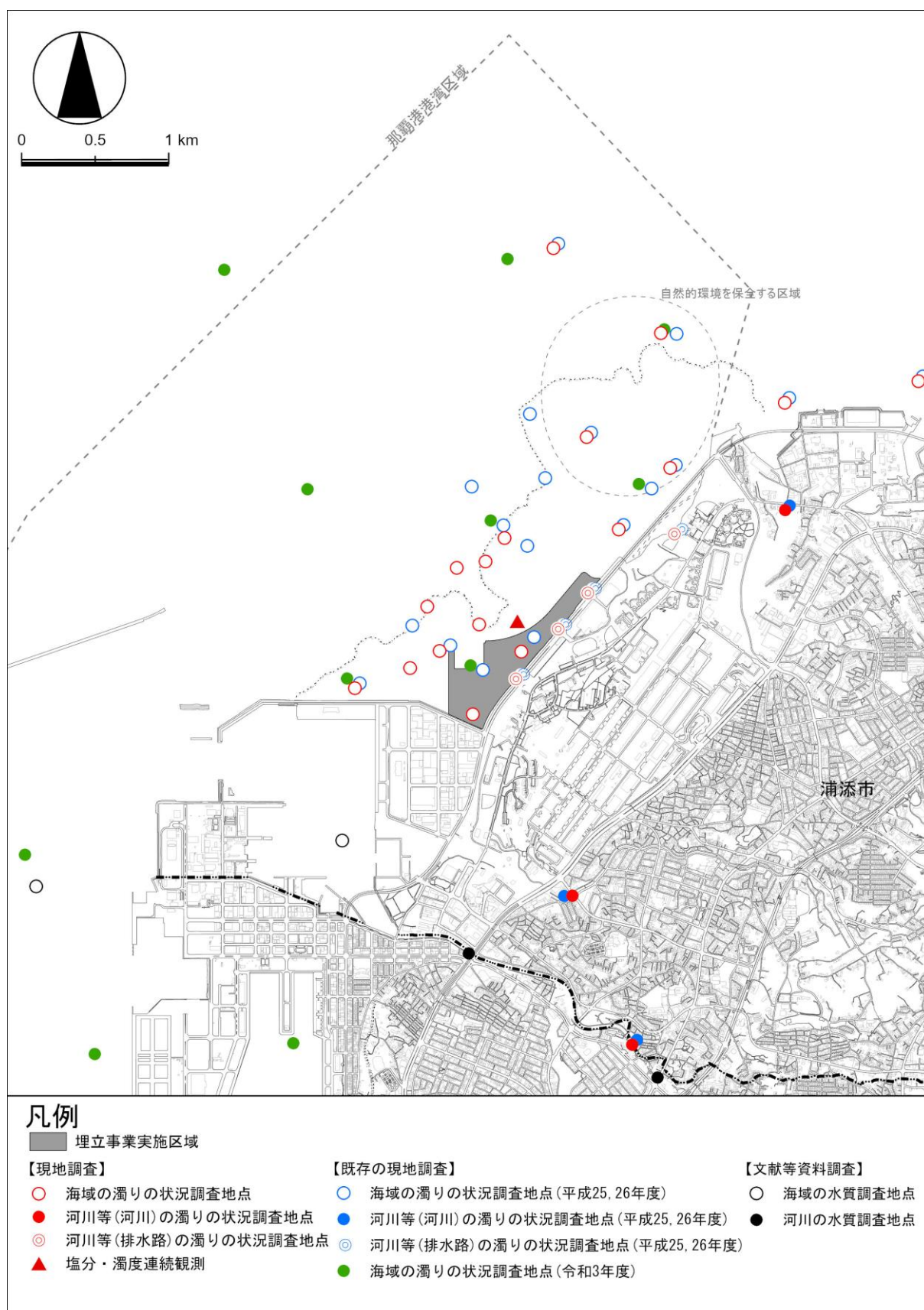


図 5.2.10(2) 赤土等による水の濁りの調査地点(埋立事業実施区域周辺)

表 5.2.12 予測の手法（赤土等による水の濁り）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	赤土等による水の濁り
	影響要因の区分	[工事の実施] 護岸及び埋立ての工事
予測項目	[工事の実施] 1)SS（浮遊物質質量）	
予測方法	[工事の実施]	潮流シミュレーションにより流動予測を行い、その後、工事に伴い発生する濁り（SS）の発生量を基にしたSS拡散シミュレーションにより予測。
予測地域 予測地点等	[工事の実施]	潮流の状況を勘案し、影響を受けるおそれがあると認められる地域において、50m 格子及び16.7m 格子に区分して数値計算を行い、濁りの影響を的確に把握できる地域。 ※水象（図 5.2.8）と同じ。
予測対象時期等	[工事の実施]	護岸及び埋立ての工事による一時的な影響による水の濁りの発生量が最大となる時期。
選定の理由	工事の実施にあたっては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用するため、標準的な手法を選定	

5.2.7 底質

表 5.2.13(1) 調査の手法（底質）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	底質
	影響要因の区分	[工事の実施]護岸及び埋立ての工事 [施設等の存在及び供用]埋立地の存在
調査すべき情報	1) 海域の底質の状況 ①観測事項 泥温、臭気、土色、外観、堆砂厚（砂面レベル） ②一般項目 粒度組成、含水率、強熱減量、硫化物、COD、底質中懸濁物質含量（SPSS） ③含有試験項目 有機塩素化合物 ④溶出試験項目 カドミウム、シアン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、有機リン、PCB、銅、亜鉛、フッ素、ベリリウム、全クロム、ニッケル、バナジウム、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、チウラム、シメジン、チベンカルブ、セレン、1,4-ジオキサン、ダイオキシン類	
調査の基本的な手法	1) 海域の底質の状況	
	文献等資料調査	「水質測定結果(公共用水域及び地下水)」(沖縄県環境部)による調査結果等の情報の収集並びに当該情報の整理及び解析。
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査(現地調査)業務委託報告書(A)」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託(B)」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	「底質調査方法」(環境庁)、「赤土等流出防止対策の手引き」(沖縄県環境保健部)及び「ダイオキシン類に係る底質調査暫定マニュアル」(環境省)に基づき、スミス・マッキンタイヤ型採泥器もしくはダイバーによる直接採泥。試料は、底質分析法、JIS等に定められた公定法により分析。
調査地域	1) 海域の底質の状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市の周辺海域
	既存の現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺
	現地調査	底質の特性を踏まえて底質に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域
調査地点等	1) 海域の底質の状況	
	文献等資料調査	那覇港海域1地点
	既存の現地調査	A: 埋立事業実施区域及びその周辺の18地点 (ただし、「③含有試験項目④溶出試験項目」は代表3地点のみ) B: 那覇港港湾区域内の13地点 (ただし、「①観測事項②一般項目」のみ)
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺の17地点

表 5.2.13(2) 調査の手法（底質）

調査期間等	1) 海域の底質の状況	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	既存の現地調査	A：平成 26 年の四季 (ただし、「③含有試験項目④溶出試験項目」は夏季のみ) B：令和 3 年の夏季・冬季の年 2 回 (ただし、「①観測事項②一般項目」のみ)
	現地調査	①②：四季の年 4 回 ③④：夏季の年 1 回 底質中懸濁物質含量（SPSS）のみ：台風後 1 回（リーフ内 10 地点）
選定の理由	工事の実施にあたっては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用するため、標準的な手法を選定 施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

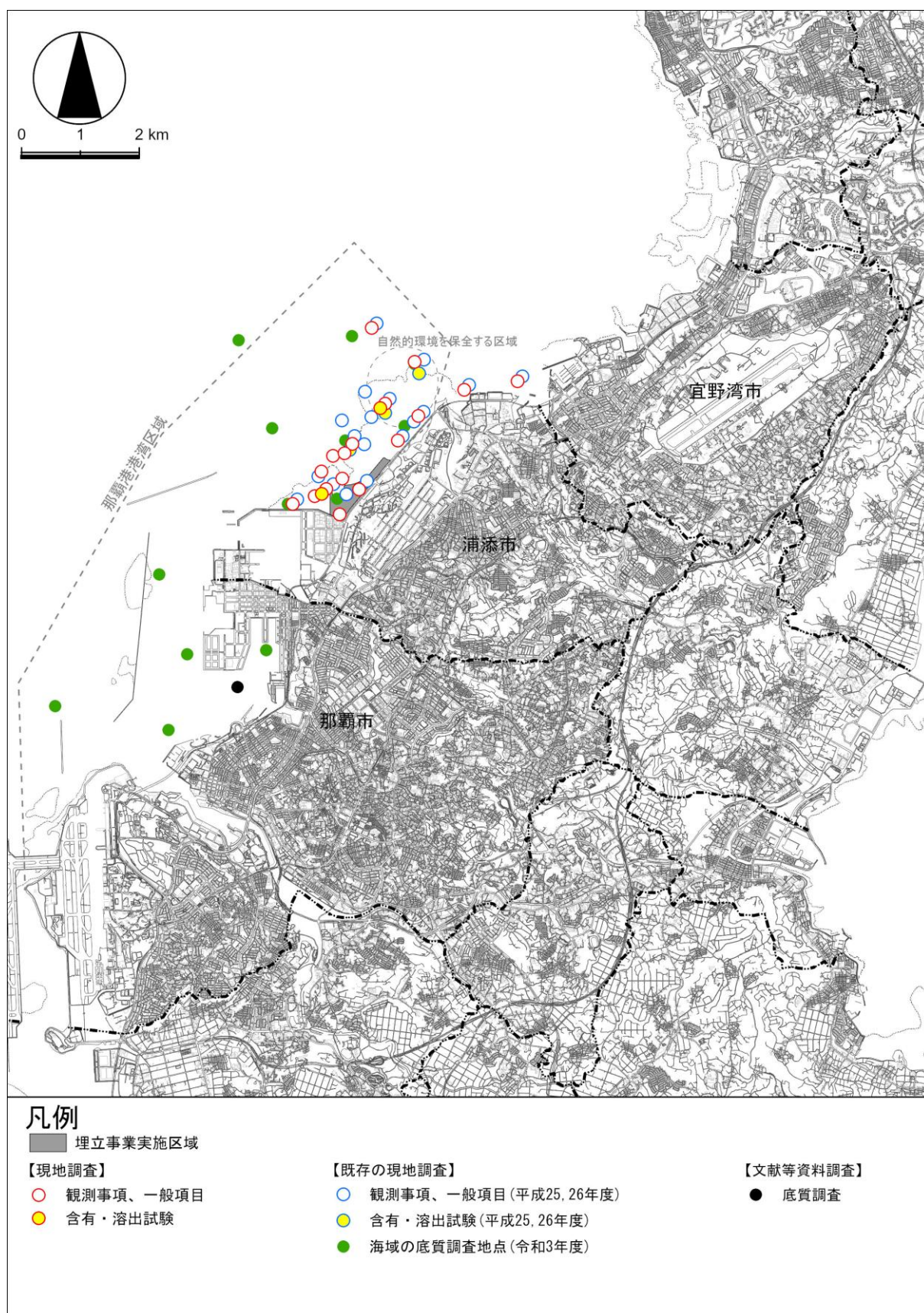


図 5.2.11(1) 底質の調査地点(広域)

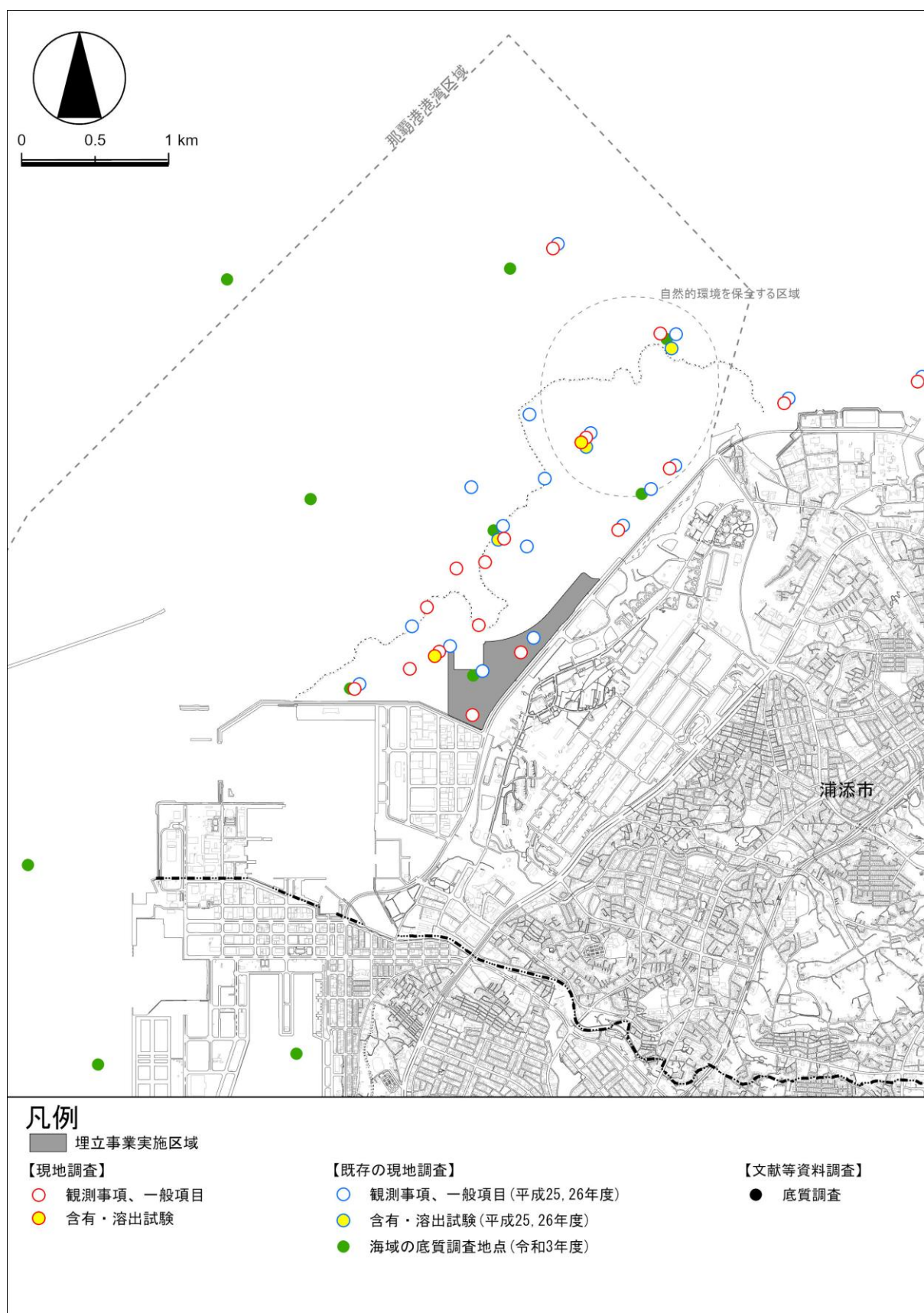


図 5.2.11(2) 底質の調査地点 (埋立事業実施区域周辺)

表 5.2.14 予測の手法（底質）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	底質
	影響要因の区分	[工事の実施]護岸及び埋立ての工事 [施設等の存在及び供用]埋立地の存在
予測項目	[工事の実施] 1)底質の状況等 [施設等の存在及び供用] 1)底質の状況等	
予測方法	[工事の実施]	「水象」、「赤土等による水の濁り」等の予測結果を基に、事業実施によるSSの堆積厚や底質中懸濁物質含量（SPSS）等の変化や潮流の変化による底質の変化について予測
	[施設等の存在及び供用]	「水象」、「水の汚れ」等の予測結果を基に定性的に予測 「6.5 水象」の予測結果からは、波浪の予測結果から海底面に作用する応力から求められるシールズ数を算出し、その結果を用いた。
予測地域	[工事の実施] [施設等の存在及び供用]	水質、底質、潮流の状況を勘案し、影響を受けるおそれがあると認められる地域
予測地点等	[工事の実施]	護岸周辺の底質の変化を的確に把握できる地点
	[施設等の存在及び供用]	埋立事業実施区域周辺の底質の変化を的確に把握できる地点
予測対象時期等	[工事の実施]	護岸及び埋立ての工事による一時的な影響による水の濁りの発生量が最大となる時期
	[施設等の存在及び供用]	埋立地が存在する時期
選定の理由	工事の実施にあたっては、一般的な建設機械、作業船、資材及び機械の運搬車両を使用するため、標準的な手法を選定 施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

5.2.8 地形・地質

表 5.2.15 調査の手法（地形・地質）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	地形・地質
	影響要因の区分	[施設等の存在及び供用]埋立地の存在
調査すべき情報	1) 地形の状況（地形、岩礁の露出状況等） ①外観調査 ②測量調査 2) 重要な地形の状況（重要な地形の分布状況）	
調査の基本的な手法	1) 地形の状況 ①外観調査	
	文献等資料調査	「土地分類基本調査」、「海底地形図」等の情報の収集並びに当該情報の整理及び解析。
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺において、干潮時における岩礁の露出状況、海浜及び干潟の構成物質の性状や分布状況等について記録。
	1) 地形の状況 ②測量調査	
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	縦断測量、横断測量を実施し、縦断図、横断図および地盤高平面図（地盤高等高線図）について整理し、とりまとめを行った。なお、横断測量は、設定した 20m 間隔の各中心点において沖向きに横断測線を設定し、5m 間隔測点及び変化点について水準測量を行った。測線長は 30m/本を原則とした。
	2) 重要な地形の状況	
	文献等資料調査	「自然環境保全基礎調査」等の情報の収集並びに当該情報の整理及び解析。
	既存の現地調査	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
	現地調査	ビーチロック、波食棚、ノッチ等の分布状況を把握。
調査地域	1) 地形の状況、2) 重要な地形の状況	
	文献等資料調査	宜野湾市、浦添市、那覇市
	既存の現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺において、重要な地形として、ビーチロック、波食棚、ノッチ等が分布すると想定される干出域
調査地点等	1) 地形の状況、2) 重要な地形の状況	
	文献等資料調査	埋立事業実施区域及びその周辺
	既存の現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺
	現地調査	埋立事業実施区域及びその周辺
調査期間等	1) 地形の状況 ①外観調査、2) 重要な地形の状況	
	文献等資料調査	至近の調査結果
	既存の現地調査	平成 26 年の干潮時に 1 回
	現地調査	任意の干潮時に 1 回
	1) 地形の状況 ②測量調査	
	現地調査	現況把握の秋季 1 回、冬季風浪影響後の春季 1 回、台風影響後の秋季 1 回、
選定の理由	施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定。	

表 5.2.16 予測の手法（地形・地質）

環境影響評価の項目	環境要素の区分	地形・地質
	影響要因の区分	[施設等の存在及び供用]埋立地の存在
予測項目	[施設等の存在及び供用] 1) 重要な地形	
予測方法	[施設等の存在及び供用]	埋立地の存在による重要な地形の改変の程度について、事例等を用いて定性的に予測する。また、併せて基盤環境の変化の程度を予測。 なお、1-line モデル（海浜変形計算）については、波浪の予測結果より現況波浪と予測波浪に有意な差が無く、海浜地形に影響しないと考えられたことから実施しないこととした。
予測地域 予測地点等	[施設等の存在及び供用]	調査地域のうち、地形の特性を踏まえた重要な地形に係る環境影響を受けるおそれがあると認められる地域。 ※調査範囲（図 5.2.12）と同じ。
予測対象時期等	[施設等の存在及び供用]	埋立地が存在する時期。
選定の理由	施設等の存在及び供用にあたっては、埋立地を造成するため、標準的な手法を選定	

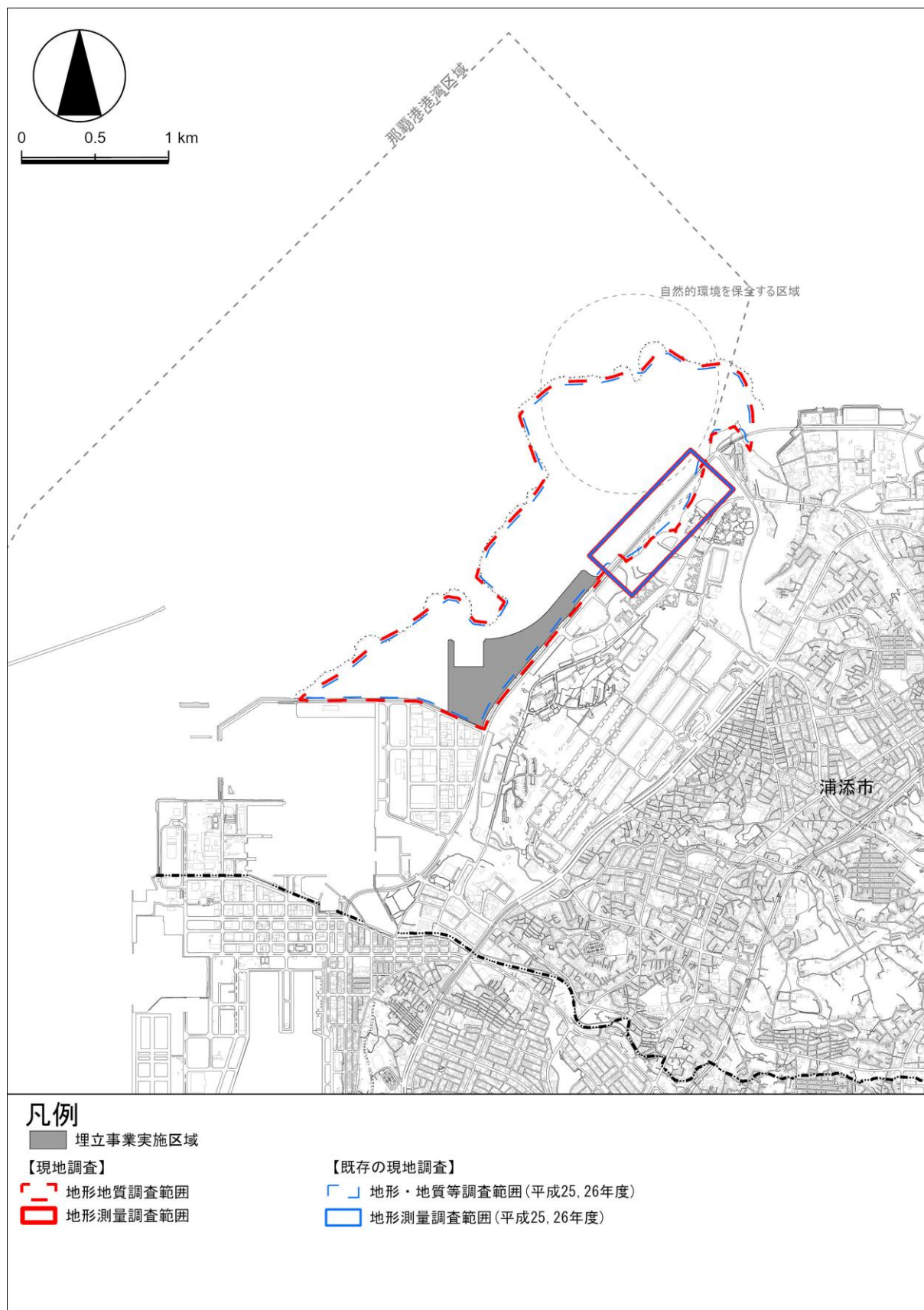


図 5.2.12 地形・地質の調査範囲

5.2.9 陸域生物

表 5.2.17(1) 調査の手法（陸域生物）

環境影響評価の項目	環境要素の区分		陸域生物
	影響要因の区分		[工事の実施] 護岸及び埋立ての工事 [施設等の存在及び供用] 埋立地の存在
調査すべき情報	1) 植物の状況 ①植物相の状況（維管束植物、蘚苔類） ②植生の状況（植生の分布） ③重要な植物群落及び植物種の状況 2) 動物の状況 ①動物相の状況（哺乳類、鳥類、両生類、爬虫類、昆虫類、陸産貝類、ワヤトカ類） ②重要な動物種の状況		
調査の基本的な手法	1) 植物の状況		
	文献等資料調査	「第6回自然環境保全基礎調査・沖縄県現存植生図」（平成13年度、環境省）、「第5回自然環境保全基礎調査 特定植物群落調査報告書」（平成12年、環境庁）等の学術調査報告書の情報	
	既存の現地調査	①植物相の状況	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、現地調査と同様。
		②植生の状況	
		③重要な植物群落及び植物種の状況	
	現地調査	④微気象	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、風向風速計及び気温湿度計を設置し、「地上気象観測指針」（平成14年、気象庁）に基づく測定方法により、7日間連続測定を行った。
		①植物相の状況	調査地域に生育する植物の生育環境や地形等を考慮しながら目視によって確認した維管束植物を記録し、重要な種が確認された場合は、位置及び生育状況等を記録。
		②植生の状況	現地調査によって境界線の確定と相観と優占種をもとにした群落の区分を行い、1/2,500程度の地形図を用いて現存植生図を作成。牧港補給基地内の植生については目視で確認できる範囲で補足。
		③重要な植物群落及び植物種の状況	上記①、②調査により、環境省及び沖縄県のレッドデータブック等に記載される重要な植物群落及び植物の分布、生育状況を記録。

表 5.2.17(2) 調査の手法（陸域生物）

調査の基本的な手法	2) 動物の状況		
	既存の現地調査	①動物相の状況	
		a) 哺乳類	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、下記に示す。 ＜定点調査＞ 定点にシャーマン型トラップを設置し、目撃やフィールドサインでは確認が困難な小型哺乳類の捕獲を行い、確認した哺乳類を記録する。 ＜測線調査＞ 調査地域において、目撃法、フィールドサイン法（痕跡法）による任意踏査を実施し、哺乳類相と確認状況を記録。夜行性の哺乳類（コウモリ類）については、オオコウモリ類は夜間目視観察、小型コウモリ類はバットディテクターによる確認調査を実施。
		b) 鳥類	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書（A）」及び「令和3年度那覇港港湾計画環境調査業務委託（B）」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。 調査内容は、現地調査と同様。 （ただし、Bでは定点調査のみ）
		c) 両生類	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、下記に示す。 ＜測線調査＞ 調査地域内を任意に踏査し、出現する成体や幼生、卵塊、卵囊の見つけ採り法と鳴声などにより生息種を確認。
		d) 爬虫類	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、下記に示す。 ＜測線調査＞ 調査地域内を任意に踏査し、目撃法、出現する成体や脱け殻、幼体等の捕獲による見つけ採り法により生息種を確認。
		e) 昆虫類	「那覇港浦添ふ頭コースタルリゾート地区環境影響評価調査（現地調査）業務委託報告書」における現地調査結果の収集並びに当該情報の整理及び解析。調査内容は、下記に示す。 ＜定点調査＞ ベイトトラップ法及びライトトラップ法により採取した昆虫類を室内にて同定。 ＜測線調査＞ 調査地域内を任意に踏査し、目撃法、見つけ採り法、スワイピング法、ビーティング法による任意踏査により、生息種を確認。